中川イセの人生、語り劇に

網走 戦後初の女性市議

上 自民党道連の婦人部長を務めた中川イセさん(前列右)と田中角栄氏(左)。中川さんは同じ庶民派として好感を持っていたという
下 網走市議など多くの役職に就き、連日の打ち合わせで忙しいイセさん＝1965年、網走市の自宅、いずれもいせの里提供

網走市で戦後初の女性市議となった故・中川イセさん（本名＝中川いせよ）の波乱の人生をテーマにした語り劇が企画されている。手がけるのはイセさんの出身地、山形県天童市で芸能事務所を運営する俳優の夢実子（ゆみこ）（本名・今田由美子）さん(53)。今年8月に網走市で上演する予定で、準備に奔走している。

イセさんは1901（明治34）年、山形県干布村（現天童市）で生まれた。父は養蚕農家相手のクワの仲買人で、母は生まれて間もなく病死した。16歳で未婚の母となり、養育費を稼ぐため遊郭に身を投じ、1919（大正8）年に網走の遊郭へ。牧場主の長男と結婚してサハリンへ移り、やがて網走に戻って馬の仲買や売買で牧場を立て直した。

戦後初の統一地方選で初当選。私財を担保にして市内に水道を敷き、山にサクラも植えた。市議を7期28年務めた後、博物館網走監獄を運営する網走監獄保存財団理事長（88～2000年）に就き、網走刑務所の受刑者に講演もした。

身長145㌢ほどと小柄ながら柔道や棒術など武道にたけ、馬にも乗り、多くの人から「ばっちゃん」の愛称で慕われた。どん底からはい上がり、明治から平成の世を駆け抜けた生涯は2007年、自らが開設に携わった老人保健・福祉複合施設「いせの里」で幕を閉じた。105歳だった。

出身地・山形の俳優、8月上演へ

逆境克服 私財担保に水道敷く

語り劇に挑む俳優の夢実子さん

脚本を手がけるかめおかゆみこさん

語り劇のタイトルは、「零（zero）に立つ～激動の一世紀を生きた中川イセの物語」。

夢実子さんは、辺地医療に生涯を捧げた郷土の女性医師を題材にした語り劇をライフワークにしている。その中で10年ほど前にイセさんを知り、「山形の女を物語る」シリーズの第2弾として企画した。

脚本のかめおかゆみこさん(56)＝横浜市在住＝は網走に実家がある。夢実子さんとは演劇関係で交流があり、昨年9月の公演でイセさんの生涯をまとめた本の朗読を聴き、協力を申し出た。脚本はまだ完成していないが、2人は4月末に網走で試読会を開き、これまで取材したゆかりの人たちに披露した。

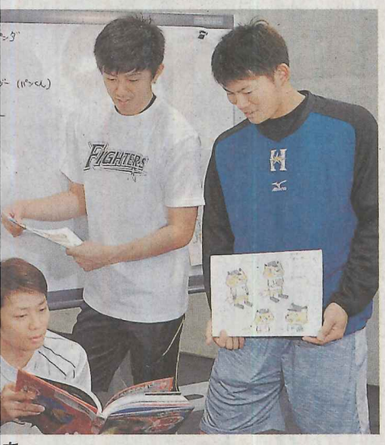
「イセさんは小学校の大先輩。逆境の中でも希望を失わず、行動で自分の人生を切り開いていった。体を張って人のために尽くす生き様は、いまの多くの人たちにきっと勇気を与えてくれるはず」と夢実子さん。かめおかさんは「エピソードが多すぎてまとめるのが大変だが、単なる美談にはしたくない。苦しみや悔しさ、時に荒ぶることもあった。そんな『人間・中川イセ』を描きたい」と話している。

公演は8月26日で昼の部と夜の部の2回、会場は網走市のエコーセンター。入場料は1千円。チケットは6月中旬から販売。問い合わせは実行委事務局（0152・43・3705）へ。

（奈良山雅俊）

投げて 打って 走って

監督⇩クマ■中田⇩ゴリラ■大谷⇩キリン■陽岱鋼⇩トラ



日本ハムが絵本作り、12月出版へ

中田はゴリラ。大谷はキリン。陽岱鋼はトラ――。

現役選手をイメージした動物が登場する絵本を、日本ハムの選手会が著作者となって作る。仮題は「もりのやきゅうチーム」。球団によると球界初の試みで、12月に出版される予定だ。

若者の活字離れに歯止めをかけようと、球団が昨夏から取り組む読書促進キャンペーンの一環。絵本は森の動物チームが海のチームと対戦する内容で、ストーリーづくりに選手が関わっていく。15日は札幌ドームで選手会長の大野ら5人が、登場する動物とそのイメージの選手を決めた。

「中田はゴリラ。見た目とパワーで」「大谷はでかさでキリン」「陽岱鋼はトラ。スピードとワイルドさで」「監督は北海道だしクマ」などと、選手たちは大笑いしたり、真剣に動物図鑑を見たりしながら選んでいった。

1児の父でもある大野は「（娘に）時間があれば本を読むように心がけています。この絵本で、子どもと親の交流にも貢献できればと思う。野球に興味も持ってもらえたらうれしい」。作画担当の絵本作家、堀川真さんも「ボールを投げたり、打ったり、走ったりする楽しさが伝わるような絵本にしていきたい」と語を

核最終処分地 考えるシンポ

NUMO、来月札幌

原発から出る高いレベルの放射性廃棄物を、地下300㍍より深い地中に10万年近く埋める「最終処分」。この処分地についてのシンポジウムが6月20日午後1時半から、TKP札幌駅カンファレンスセンター（札幌市北区北7条西2丁目）である。入場無料。

国や電力会社でつくる原子力発電環境整備機構（NUMO＝ニモ）の主催。NUMOは2002年から候補地を全国で公募しているが、今も決まっていない。

シンポでは、東日本大震災で福島第1・第2原発の事故を経験した道内の高校生が、「地層処分の安全性を考える」をテーマに意見を発表する。

パネルディスカッションでは、経済産業省の幹部や大学教授らが地層処分の現状や見通しについて議論する。

定員は200人で、申し込みが必要。ホームページ（http://www.chisou-sympo.jp/）で受け付けるほか、郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記し、ファクス（011・251・6561）か、はがき（〒060・0002、札幌市中央区北2条西2丁目札幌ウイングビル5階、オールプロデュース内シンポ事務局宛て）で。地層処分への意見や質問も募っている。締め切りは同17日まで。問い合わせは事務局（011・252・6930、平日午

高校生就職率 96.2％ 前年上回る

今春卒業した道内の高校生の就職率（3月末現在）は96・2％で、前年同期を1・2㌽上回ったと、文部科学省が19日に発表した。全国平均は97・5％（前年同期比0・9㌽増）だった。

男女別では、男子が97・5％（同0・8㌽増）、女子は94・4％（同1・6㌽増）。就職希望者のうち、3月末時点で就職が決まっていないのは400人。道教委高校教育課は「ハローワークなどと連携し、未内定者の就職を支援したい」としている。

カーリング女子 道銀が勝利募金

赤い羽根に3万2千円

カーリング女子の北海道銀行が19日、北海道共同募金会の赤い羽根共同募金に3万2千円を寄付した。国

年、昨シーズンどれくらい勝ったか、いい振り返りになっている。カーリングをして社会貢献ができるのはとてもうれしい。今年も一つでも多く勝ち、恩返しができるようにがんばりたい」と話した。